

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4076600081		
法人名	社会福祉法人 朝倉恵愛会		
事業所名	グループホームローズハウスいしずえ		
所在地	福岡県朝倉市入地2728番地1 (電話) 0946-52-1116		
自己評価作成日	令和元年9月30日	評価結果確定日	令和2年1月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成15年4月開設より16年を経過した施設である。食堂からは遠くまで広がる田園風景や、耳納連山の景色を楽しめる。敷地内の鳥小屋にはおしゃべりをするオウムや極彩色のインコがおり、自然に恵まれた施設の中で穏やかに過ごせる環境となっている。また、道を挟んでグランドゴルフ場があり、地域の方や併設施設のご利用者やグランドゴルフ大会にて交流を深めることが出来る。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和元年10月22日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然環境に恵まれた場所にあり、園内のゲートボール場は地域交流の場所でもあり、園内で飼育されているインコなどの鳥は子どもたちの楽しみ場所でもある。建物2階にあるグループホームでは少人数の利用者が家族的な雰囲気の中で生活されている。風水害などの緊急時には、施設が近隣の緊急対応の避難場所として利用されている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示しており、出勤してきた職員は理念を唱和して業務に入り理念の実現に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の理念があり、毎朝唱和されている。法人の行動方針があり、スタッフ会議で理念の確認がされている。地域の中で「その人らしい生活」が送れるように支援がされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年施設主催の行事には、近隣の方や幼稚園児も参加し、交流の場となっている	地域で行われる清掃活動や法人が主催する敬老会などで交流がされている。園庭のグラウンドゴルフでの交流などが行われている。園内でインコなどの鳥を飼育しており、保育園の子ども達が見学に来ている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に利用者、利用者家族や区長、老人会、民生委員、駐在所、行政の方に参加して頂き、認知症の対応等の意見交換や、研修会で得た事柄等を発表している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて地域の情報や要望、家族の要望を聞いたり、利用者の日ごとの暮らしぶり等を報告し出席者との意見交換を行っている。	2ヶ月に1度開催される運営推進会議には利用者や家族、行政、地域包括の職員、警察の方が参加している。会議ではグループホームの行事内容や利用者の退所状況や認知症に関する研修の取り組みなどが話されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護に関する疑問点や問題点、不明な点は、運営推進会議で市町村に相談したり、電話にて細かく相談している。又、介護保険の改正や書類の申請時に窓口や電話で相談している。	運営推進会議の外に施設運営や行事などに関することや研修計画などで、行政と電話連絡や訪問による協力関係が維持されている。介護保険関係の制度について、質問などを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H30.1月より運営推進会議と同日に（2か月に1回）身体的拘束適正委員会を行っており、また3か月ごとの身体拘束職員研修を行って身体拘束排除宣言を掲示、日々確認して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束をしない取り組みについて、職員研修会を開いている。職員各自の自己確認による防止策を図っている。また、職員がお互いに気づいた点を話し合っている。安全確保のため、玄関が施錠されることがある。	短時間でも、鍵をかけないでいいような取組を工夫して欲しい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止については日頃より研修会を行い、虐待と思われるような行為がないか確認し、虐待行為の意識を高め日々注意し、防止に努めている。又虐待に関する事件を新聞テレビ等の情報を共有し虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内にパンフレット（資料）を備えており、運営推進会議等で家族に説明を行っている。また外部研修や事業所内研修に参加する事で学ぶ機会を持っている。	入所契約時に家族に成年後見制度などの権利擁護に関する説明が行われている。行政のパンフレットを施設内に置いて、いつでも見ることができるようにしている。行政等による権利擁護の研修を受けて、内部で伝達研修が行われている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は入所時やその後、変更・介護保険改定時に管理者からご家族に提示し、説明を行っている。質問や疑問点についても理解して頂ける迄、わかりやすく説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの電話や来園時、気軽に声を掛け易い雰囲気を作り希望や心配事等傾聴に努める。家族への現状報告の際に、意見や要望を聞いており、職員全体で共有し、対策を検討している。運営推進会議ではこのような現状と対策を報告している。玄関入り口には意見箱を設置している。	日頃、利用者や家族からの要望を聞き取り、職員が正月やお盆の時期に自宅への一時帰宅の機会を提案する等、運営に反映されている。職場環境などについても提案がされている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出された改善提案を研修会やカンファレンス時等で検討し運営に反映させている。また定期的や必要に応じて代表者や管理者との面談を行っている。	運営推進会議には利用者本人や家族の参加がある。意見や要望は多くはないが、食事のことや日中活動の塗り絵の希望が聞かれる。職員は平常、利用者の希望を聞き取り、日中活動など生活の中で生かしている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己チェック表にて把握し、3か月に1回の面談を管理者が行い、職員の要望や意見を聞き取り、職場環境作りに努めている。働きやすい職場の為の委員会も活動している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集採用については法人が行っているが性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない。一人ひとりの得意な事を発揮出来る職場作りや、勉強会に参加してスキルアップできるよう支援している。	グループホームでは新規の職員採用は最近は行われていないが、これまで年齢や性別による採用の差別はしていない。勤務条件の変更について、柔軟に対応され、長く働ける配慮がされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	プライバシー保護、人権と権利擁護、倫理及び法令順守についてを事業所全体研修で行っている。	人権についての研修が定期的に行われるほか、スタッフ会議で日常的に人権に関する話し合いがされている。市町村などで開催される外部研修に参加し、研修記録が残され、すべての職員が確認できる体制がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回以上の代表者との面談を設け、個々の目標を明確にしスキルアップに努めている。新人がいない為、基本を振り返る機会が少なくなりがちであるがそれぞれの力量が向上する環境を作っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会へ参加し、業務の問題点、事例検討等で話し合いネットワークづくりを行い、内容については他職員にも情報を共有している。スタッフセミナーは出来るだけ参加するよう取り組んでいる。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の自宅や施設を訪問し、生活環境を確認し、本人や家族が困っている事、不安なことなどを聞き取り、情報収集に努め、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントにより、本人の日頃の様子等の情報を伺いながら、家族の思いも傾聴し、関係づくりの努めている。何が必要なのかを十分に話し合い納得が得られるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは施設の環境に慣れて頂ける事。命に係わることを第一に考え、本人、家族との話し合いにより、必要としている支援や要望を伺い安心してサービスを利用して頂けるような対応をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の御利用者に来る事を生活の場から細目に把握し、コミュニケーションを取りながら、楽しく意欲が持てるよう依頼する事で、本人のできる事、できない事を見極め、できることを生かせるように見守り支援する。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来園時に本人の日頃の状況や思いをお伝えし、要望や心配ごとを気軽に話して頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方や親戚関係等、いつでも面会できる体制であり、デイサービス利用者、地域の方からの面会要望があれば身元引受人の許可を頂き関係の継続に努めている。	入所までに家族から聞き取った馴染みの人や場所を記録して、その後の支援に活用している。回数は少ないが、訪問や文通などつながりを維持できるような支援がされている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況や個性を尊重考慮しながら、利用者の会話が進むよう必要な時に席替えを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の状態等で住み替えが必要となった場合、利用者の「移り住む事のダメージ」を最小限に食い止める為、移り住む先の関係者に対して本人の情報を細かに伝えている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中から思いや意向を聞き取り把握に努めている。困難な場合は日頃の生活状況を細目に把握し、言葉や行動から気持ちを汲み取り本人本位に検討している。	これまでの生活歴や性格などアセスメントを通じて、職員が理解し、日々の生活が意義あるものになるよう支援がされている。亡くなった配偶者への想いを尊重し、家族との関係などを生かせるよう働きかけている。訪れる小さな子どもとの交流にも配慮している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境が急に変化しないように、本人や家族より自宅での生活を訪ねながら、安定した生活が送れる様に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりその日の心身状態や、表情を見ながら、状況の把握を行っている。体調不良時や行動に変化ある時はケース記録を記入し、連携を取り合っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンス時や、問題発生時にはその都度改善点を話し合い、状況に即した介護計画を作成している。	ケアプランは6ヶ月毎、状態変化時に家族、職員に聞き取りしケアマネジャーが作成している。毎月のカンファレンスで利用者の変化や気づきを職員がメモに記入し、その場で検討し聞き取りを行い、ケアマネジャーが行っている。ケアプランは職員全員が把握しており、実施記録を記入し、申し送り時に、その都度情報共有している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯と記録を行い、勤務交代時の申し送りにより職員間での情報を共有している。カンファレンス時に話し合ったことを自立支援に繋がるように計画に盛り込んでいる。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのその時の状況に対して、家族や主治医と相談しながら取り組んでいる。その人の個性に寄り添った回想法や唱歌、また読書や新聞閲覧、パズルなど柔軟な支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所のグランドゴルフ大会で地域の方との交流を図っている。春には花見用お弁当を注文し、庭園にてゆっくりと過ごして頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医と連携を密にし本人の体調管理に努めている。体調不良時は主治医、家族と連絡取りながら必要時は往診や家族対応にて受診対応して頂いている。受診時（入院時）は必要な情報を電話や書面にて行っている。薬局より薬剤師が薬を届けに来られた際、服薬上の相談や方法等尋ねながら適切に服薬介助が出来るようにしている。	月2回提携クリニックより訪問診療を受けたり、入居前からのかかりつけ医への受診は原則、家族支援で行われ、受診時には血圧表の記録を渡し、日々の状態を家族にお伝えしている。受診結果は、業務日誌にも記録し、職員間での情報の共有を図っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時は本人の状況がわかる情報の記録を渡し適切な受診や看護を受けられるように支援している。必要な情報や日頃の気づきをかかりつけ医の看護師に電話にて連絡し、主治医に繋いで指示を仰いでいる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は書面にて情報提供し、病院に出向き医療相談員との情報交換や、今後の支援について相談し合っている。退院時には主治医への情報が届けられ指示を受けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期における確認書を交わしている。入所時に重度化に向けた方針について書面にて説明し同意を頂くようにしている。	看取りは看護師不在のため、現在は行っていない。「重度者介護に関する指針」があり、入居時に家族等へ説明し、同意を得ている。重度化した時に再度、意向確認を行い、「救急隊への情報提供表」「入院時情報提供書」を渡し主治医の指示で病院へ搬送している。「エンゼルケア・マニュアル」を作成しており、看取りの研修も行い、知識を深めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中で、定期的に急変時対応方法やAED使用方法の研修を行っている。急変時や事故発生時は夜間でも主治医に連絡し支持を頂き対応、マニュアルも作成している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎晩夜勤者と宿直者で避難訓練を行う事でマニュアルを熟知している。年2回消防署の立ち合いにて防火避難訓練を受け、指導援助を頂いている。災害時には敏速に対応できるように定期的に職員全体で研修会を開き災害に対する意識を高めている。	年2回昼夜想定し、消防署の立会いで、毎回ではないが地域消防団も参加し、母体法人と合同訓練を実施している。避難経路図を掲示しており、水害想定訓練も実施している。備蓄は施設内に食料等常備している。	非常時の備蓄食料品の一覧表を作成されているが、1日程度の備蓄であり、非常時に備えて、水の備蓄も含め今後、備蓄量の検討をして欲しい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや対応に気を配っている。本人のプライバシーに関する事はご家族と同意書を交わしている。個人の記録等は定められた場所に保管し目に触れないようにしている。	毎月のカンファレンスの際に内部研修を行い、職員間で情報共有している。写真等の使用についても同意書を交わしている。日頃の業務の中での声かけや言葉・行動に職員間で注意し合い、利用者の情報は職員のみ共有し、プライバシーの保護に努めている。	換気のために、居室のドアが常時開かれた状態であり、廊下よりベッドが見える状況です。時間を決めて換気を行い、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを確保して欲しい。
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や家族からの情報により、本人の思いや希望を推測しながら言葉掛けをし、やりたい事や言葉を引き出すように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが一人ひとりの状況に合わせ、カラオケ、塗り絵やパズル、テレビ鑑賞、読書や新聞閲覧等自分のペースで取り組まれている。自室に戻り休まれたり、食堂で利用者同士世間話に花を咲かせている。落ち着かれず移動される利用者は可能な限り見守り声かけしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族持ち込みの衣類を選べる方は一緒に選んで着て頂いている。重ね着や厚着にならないよう見守り声掛けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気の合った利用者同士で談笑しながら食事が楽しめるよう、また自分のペースで食事ができるようにテーブルのメンバーには気を付けている。	施設が2階にあり、食堂近くの出窓でプランターにきゅうり・トマト・青じそ等の栽培を行い、採れた野菜を食材として使用し、季節を感じられるようにしている。食レクレーションを開催し、フルーツポンチ・盆団子づくりなど一緒にを行い、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の業者に依頼しバランスの取れた食事を提供している。りょうしゃの体調に合わせて食事形態を変え、水分量は水分補給の時間を作り、水分量を確保している。食事量・水分量が記録し状況を把握している。摂取困難な場合はケース記録を取り、医師に相談する等の対策を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを支援している。歯間ブラシを用意している利用者もおられ、必要に応じ職員が介助している。夜間は義歯を預かりコップは定期的に消毒、歯ブラシは毎夜消毒を行っている。口腔内の汚れや臭い、痛み等あれば家族、医師に相談し、治療や口腔ケアの指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況に応じ、パットの対策等行っており、尿意のない利用者にも時間を見て誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に全利用者の排泄状況を手書き記入している。チェック表を確認することにより、職員全員が利用者の排泄パターンを把握し、前誘導を行ったりトイレ誘導も定時に誘導等の支援をし、パッドも検討をすることでパッドの交換回数が減る等の改善がなされている。。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多めの水分補給と乳酸菌飲料を定期的に摂って頂き、定時に食後の排泄誘導を行ったりお腹のマッサージをするなど便秘予防に努めている。毎朝全員でリハビリ体操を行い運動の機会を作っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に3回午後より、利用者の状態に合わせて入浴を行っている。待ち時間にはタオルを畳んだり唱歌などグループワークを行っている。入浴日でない日でも必要ならば入浴を行っている。	週3回、午後より、利用者の状態に合わせて入浴を行っている。浴室が広く長椅子をおいて足浴を行ったり、入浴が楽しみになるような工夫がされている。入浴を拒否される方には、言葉かけを時間をかけて寄り添い、対話することで落ち着いて入浴できるよう支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態把握し日中休息が必要な方は自室に戻り休んで頂いている。臥床時間に眠られない方は食堂にて眠くなるまでテレビを見たり読者をしてゆっくり過ごされている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋は個人記録のファイルにとじており、現場でいつでも確認できるようにしている。薬の変更時は連絡ノート等で職員周知できるようにしており、状態変化等は主治医に細目に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、入所後の生活状況から本人の能力の発揮できる場を見つけテーブル拭き、洗濯物たたみ等の役割を果たして頂いている。年に一度の敬老会は家族も参加して頂き一緒に踊りや歌、劇等の演技を楽しまれ、お祝いの食事を頂かれる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせて、気候の良い日は施設周辺の散歩を行っている。お盆や正月には自宅に帰られて親戚の人達と楽しい時間を過ごされる方もおられる。	気候の良い日には1階に降りて、戸外の椅子に座って外気に触れる機会を支援している。家族と一緒に病院受診後に外食したり、敷地内にある桜花見・地域の文化祭や法人主催のグランドゴルフ大会・敬老会などの見学を支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金の所持は控えて頂いており、本人からのお金の所持希望される方はおられない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎ行いが、家族と話し合い、電話をしても良い時間を取り決めている。毎年家族への年賀状を職員と共に作り送っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂玄関は広々として開放感が味わえる。廊下は所々ソファが置いてあり散歩の合間や入浴待ち時間等、気の合う利用者同士談笑しながらゆったりと過ごされている。廊下や食堂には写真や季節の風景作品を掲示して楽しめる雰囲気づくりをしている。室温や湿度はエアコンの温度調整を行い居心地の良い空間づくりに努めている。	事業所内は掃除が行き届き、清潔に保たれている。廊下等の植木鉢も利用者の動線を考え、危なくない植木を置くなどシンプルに配置されている。テーブルの配置も利用者にとって使いやすい配置を考え、共有空間には利用者の方の作品等が飾られ、日中は殆どの利用者がリビングで過ごされる等、居心地のよい工夫がされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルではほとんどの人がテレビが見やすいように配置の工夫をしている。本人の落ち着くソファに座り本を見るなどして過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が今まで使い慣れた家具や仏壇、家族の写真等が持ち込まれ安心して生活できるようにしている。居室にはトイレ・洗面所。エアコンが設置されており、居室中間にはつい立があり、プライバシーにも配慮されている。	居室内はベッド・エアコン・カーテンが備え付けられており、つい立ても置かれている。使い慣れた収納タンスなどの持ち込みも自由で、写真等も飾られており、利用者の方が安心して、穏やかに過ごせるように工夫された居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下食堂トイレには手摺りが設置されており、移動空間に出来るだけ物を置かないようにして安全に移動できるように配慮している。居室内レイアウトはトイレへの移動が容易に出来るようにベッドの位置を考え、危険個所には衝撃を吸収するシートを貼るなど工夫している。日中もセンサーマットを活用し安全確認を行っている居室もある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
			○	③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		